

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	02-01-04-03
事務事業名	高齢者住宅改造成業		
事業開始年度	平成12年度		
根拠法令・要綱等	備前市高齢者住宅改造成業実施要綱		
総合計画	大項目 基本目標	健康でやさしさあふれるまちづくり	問合せ先
	中項目 基本施策	やさしさあふれるまちづくり	担当課(室)
	小項目 施策	高齢者福祉	職・氏名
			電話
			64-1827

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	要介護認定又は要支援認定を受けた高齢者
目的(何のために)	高齢者の居宅における日常生活を容易にするとともに介護者の負担を軽減し、在宅生活の継続を促進する。
行政活動(どのような方法で)	住宅改修の工事費について助成する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	居住環境の向上を図ることにより、高齢者が住み慣れた家で長く暮らしたいことができる。

事業の実績					
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	住宅改造成業利用者数	人	12	10	13
	直接事業費	千円	3,147	2,052	3,425
	人件費	千円	1,040	1,140	524
	事業費計	千円	4,187	3,192	3,949
	国県支出金	千円	1,573	1,026	1,467
	受益者負担	千円			
	市一般財源	千円	2,614	2,166	2,482
	必要人員	人	0.15	0.15	0.07
	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
住宅改造成業利用者数	説明				
結果指標	結果指標量	12	10	13	
	対前年比	-	83.3%	130.0%	
	活動コスト	4,187,000	3,192,000	3,949,000	
	単位当たりコスト	348,917	319,200	303,769	
結果指標	結果指標量				
	対前年比	-			
	活動コスト				
	単位当たりコスト				

事業の成果			
成果指標名	住宅改造成業利用者数	式又は説明	
		17年度	18年度
成果指標量		12	10
対前年比			83.33%
到達目標値		12	到達目標年度
			毎年度

事業の目的、対象、内容を考えてながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している		
対象	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある		
	行政活動	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない	
事業の意図する成果	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	高齢者が住みよい暮らしができる。高齢者の在宅福祉の根幹であり、特に問題はない。	
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である	
市の関与	<input type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
コスト	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
	効率性の評価	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	効率性評価<A-E>
手	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	課題認識	
	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
職	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
	手	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	
目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている	対象者の検討を行ったが、利用者数が増加すれば、事業費が上がる。	
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
成果向上の可能性	職場	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	有効性評価<A-E>
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている		C
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	課題認識	
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	
市民参画度	<input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している		
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである		
結果指標	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している	高齢者が自宅で住み続けるには、転倒を引き起こすおそれのある段差の解消など、住環境を整備することは重要である。より一層の制度の周知が必要である。	
結果指標	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している		
	<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		
結果指標	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		

平成20年度の状況		説明	対象者の見直しを行ない、要綱を一部改正し事業を継続している。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量	12	結果指標量
	成果指標量		12

総合評価		評価区分<A-E>	C	
介護保険に住宅改修の制度はあるが、工事によっては、金額が十分でないこともあり、市が行う自立支援策としては重要である。				

平成21年度以降の方向性		<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	制度の周知を図る	21年度	住環境の整備が図られ高齢者の福祉の増進につながる。